

【平成29年度 第2回港区史編さん委員会 会議録 要旨】

平成30年3月28日(水)

午後6時45分～7時45分

区役所4階 庁議室

【委員】

出席者：井奥成彦委員長 田中秀司副委員長 岩淵令治委員 唐木富士子委員 小林元子委員
小林靖彦委員 都倉武之委員 野尻三重子委員 渡邊仁久委員 小柳津明委員
青木康平委員 堀二三雄委員 浦田幹男委員 北本治委員

欠席者：なし

遅刻者：なし

【事務局】 総務部総務課

【傍聴者】 なし

次 第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 「(仮称)新・港区史」の構成(案)について
 - (2) 港区行政年表について
- 3 その他
- 4 閉会

配布資料

- 資料1 「(仮称)新・港区史」の構成(案)について
資料1-2 「(仮称)新・港区史」構成
資料1-3 「新修港区史」と「(仮称)新・港区史」の構成比較表
資料2 港区行政年表について
資料2-2 港区行政年表(公開用)
資料2-3 区史本編への記載希望事項
資料2-4 港区行政年表 公開イメージ(デジタル港区史)
参考資料1 監修者名簿
参考資料2 執筆者名簿

議事要旨

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 「(仮称)新・港区史」の構成(案)について
資料1～1-3について説明。

・区史の構成については、執筆者会議や監修者会議で具体的な検討を進めてきた。

- ・構成案については、新修港区史の構成を元に、編、章、節、項の4構成。
内容については、資料1-2、別紙のとおり。
図説版、資料編の構成については、次回の当委員会の議題とする予定。

委員：近世は、新修港区史との対比のなかで一見同じようにみえて大きく違う部分があるので、3つほど特徴をあげたい。1点目は、空間ごとの社会をみていくというのが90年代以降の研究で取り入れたこと。2点目は、考古学を取り入れたこと。3点目は、地域の資料から個別の事例や事件を取り上げ、立体的に具体的に組み立てたことである。

委員：新修港区史では、節の中で一つのストーリーのように描かれていたものをテーマごとに再整理した。

特に、今回は区の行政文書の目録化も進んでいるので、その活用も考えている。また、都の公文書館等の資料も用いながら、区民の生活の実態の資料の発掘、町会等にも協力をお願いし、資料を新しく、いろいろな視野で広げていく。

委員長：構成案について、何か質問等はあるか。

なければ、構成案について、了解いただいたということでよいか。

<異議なし>

議題（2）港区行政年表について

資料2～2-4について、説明。

- ・行政年表について、平成30年5月以降、デジタル港区史に掲載し、区史編さんの過程として公開する。
- ・現在、デジタル港区史において、新修港区史等、刊行済みの区史を公開している。これらに加え、区長の100歳訪問と合わせて実施した100年の体験インタビューについても、音声と当時の地域の写真とともに、オーラルヒストリー「100年の記憶」として掲載し、公開している。
- ・行政年表と編さん過程で収集した資料や写真を紐づける。
- ・平成34年度に公開する現代編では、行政年表の事項と区史本編を連携させていく予定。

委員：この事案は、監修者会議に上がっていない。デジタル港区史は、どういう位置づけになるのか。港区史とは別物なのか。

事務局：デジタル港区史とは、今回構成する港区史すべてを含むものである。

委員：監修者会議は、港区史の執筆、監修に関する実務部門の意思決定機関と位置付けられているので、いきなりここに出てくるのが不思議である。

事務局：行政の一資料として、現代編の執筆者の方に早めに提供していきたいというところがある。

委員：公開するとなると、監修者・執筆者への提供ではないので、デジタル港区史と監修者の関わり方が不明である。

事務局：デジタル港区史というものが、港区史の全体を所掌するもののなかでは、本編とは若干違う位置づけという理解の上で、行政年表は公開しようと考えていた。

委員：監修者（執筆者）会議で一度諮ったほうがよい。監修者として準備しなければいけない立場

からの意見である。

委員長：監修者会議で一度通して、そのうえで公開という手続きが適当であるとする。

委員：デジタル化をして、見やすくなって良い。区史は本という形式もあり、どちらも資料としてはあってよい。二つあるという認識でいいのかなと思う。

事務局：本としてあるものを、インターネット上でも見られるように作る。

委員の発言は、行政年表は港区史の非常に重要な資料になるので、きちんと編集の全体会議のなかで諮るべきではないか、という意見である。ご意見を踏まえ、監修者会議のなかで諮り、ご確認をいただいたうえで公開することにする。

委員：デジタル港区史で行政史だけが平成30年5月という状況の中で公開していくというのは、時期尚早と思うので、調整をしたほうがよい。区史本体の中での取り扱いをどうするかをしっかりと論点整理して対応させていただければ。

委員：オーラルヒストリーについても同じ点がある。専門的な立場で港区史に関わっている以上、ちゃんと内容をお互いにキャッチボールしていいものを作りたい。

委員：オーラルヒストリーの公開については、私もワンクッションあっていいと思う。

事務局：オーラルヒストリーについては、既にインターネット上で公開させていただいている。あらためて、その取り扱いについては、全て監修者会議なりのところに出していくような手順を踏みたい。

委員長：では、デジタル港区史の公開については、手続きとして監修者会議を経て、そこで少し議論をした上で公開をするというような形ということをお願いする。

3 その他

港区史のオーラルヒストリー 『100歳の記憶』の上映

委員：次回、執筆者会議のとき、また放映していただくとありがたい。

その他、執筆者、監修者の立場で2点ほど申し上げたい。一つは区から書類が出るのが最終的に遅い点。もう一つは経費の点について。全体の用途の説明がないがないのではかりかねるが、年間の予算額に対して、常識的に考えて、区史編纂の根幹にかかわる調査・研究・執筆に関する経費、すなわち会議費や調査活動費、原稿料が相対的に低いように思える。いいものを作ろうとして努力しているので、もう少し考えていただきたい。

事務局：1点目の事業者と区との関係、書類は申し訳ない。経費については、あらためて区の中で少々検討させていただく時間をいただきたい。

委員：区史については、後世に残していくということが基本だと思う。従って、執筆者の方たちが、理解と納得の上で執筆にあたっていただくということが、私たちとしては目指すところである。

委員：執筆者の方々の熱意と、丁寧に慎重に取り扱ってくださっていること、それから、また、区の担当者の方も、それに丁寧に対応してくださっているように、私には受け止められた。特に、新しい資料が入って、いいものができるということで、港区の行政年表も自分の生まれて生きてきた年数に近いものなので、大変期待している。

4 閉会